

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	15	学 校 名	静岡県立東部特別支援学校 伊豆高原分校	校 長 名	長崎 良夫
------	----	-------	------------------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	自己理解、自己調整力の育成	相談できる先生がいると答えた生徒80%以上	相談できる先生がいると答えた生徒88%	A	自分自身を振り返る時間の確保ができた。生徒と教員の信頼関係を大事にしながらさらに即時対応できるような体制づくりを心掛けたい。
		生徒に適切な指導、支援のための校則が作成できた	生徒会で自販機使用の約束ができた	A	作成はできているので、今後も見直し等生徒とともに行いたい。 内容により教師間での認識の違いもあるので共通理解を図りたい。
	互いを認め合い人権を守る心の育成	生徒の人権を意識して指導、支援ができた	生徒を大切に する気持ちを持って指導することができた。	A	あいさつ運動の呼びかけや啓発など、あいさつの強化を図りたい。 教職員が見本となるよう人権研修をさらに強化したい。
		友達と仲良く過ごせた生徒90%以上	友達と仲良く過ごせたと答えた生徒88%	B	生徒会行事など縦のつながりもできるようなことをやっていきたい。
	生徒の実態を考慮した防災体制、感染症対策の充実	新しいマニュアルで災害時自分の動きが把握できた	教職員研修でマニュアルを使用し、発災～避難生活までの教職員の動きを確認することができた。	A	避難経路について高校とも確認し、円滑に避難できる経路を確認できた。 伊豆伊東高校職員と合同でのマニュアル読み込みを行い、避難時の担当を確認したい。
		災害時どのように行動すればいいか理解できた生徒89%以上	防災訓練で避難の動きを教師と一緒に確認し、全員が落ちついて動くことができた。	A	教室で、各クラスで生活をしている際の避難を確認することができた。体育や作業などの授業や、校外での活動時にも訓練を行いたい。伊豆伊東高校との合同訓練を引き続き要請していく。

様式第3号

育 む	生徒が主体的に学べる授業づくり	外部講師による研修が役に立った	SCの先生を招いて夏季研修会を行い、教育活動にいかすことができた。	A	対応が難しい生徒に対する実態把握やコミュニケーションの大切さが理解できた。 先生方の要望を聞きながら、外部講師を招いての研修会を行いたい。
		ICTを活用した授業を行った	生徒・教員が情報機器を使いやすい環境を整備し、授業での活用が見られた。	A	職員向けの情報機器の研修は継続して行う。映写機器を使って授業する機会が増えているので、全教室の常設のプロジェクターを整備したい。
	自立と社会参加を目指した進路指導	家庭と協力しながら実習等の実施、進路決定に向けた連携ができた	希望に沿って進路指導を進め、会社（事業所）、学校、家庭と連携できた。	A	学校内の進路指導について保護者に理解を促し、生徒、保護者の希望に沿った進路に進められた。今後も職場開拓を積極的に行っていき希望に沿って進めていきたい。
	自分の目標に沿って専門性を向上する	研修を教育活動に活かした	教員のニーズに合わせた研修を行うことができた。	A	身近なテーマ設定で行い、教育活動に生かすことができた。研修課、自立活動課で話し合いをし、研修内容の精選や課共同の研修なども考えていきたい。
つ な ぐ	入学前、在学中、進路先との継続的支援体制の構築	対応が難しい生徒について学部で共有できた。	中学校、中学部との情報交換により、指導の材料を収集することができた。	A	今後も中学校、中学部との情報交換を行い、連携を密にして情報を共有できるようにしていきたい。また関係機関との連携も迅速にしていきたい。
		ケース会議で生徒の課題に方向性が見えた。	課題が難しくなる前にコーディネーター、企画会で相談できが、成果が出るまでは時間がかかった	A	支援の必要なケースが増えてきている。小さい学校なので、全員で情報を共有し、全体で支援したい。 保護者支援が難しくなっている。外部機関との連携はできているので、どのように進路につなげていくかが課題である。
	情報共有と情報発信	どのような支援を行っているか校内で発信	校内の掲示板や終礼等を活用し、情報共有することができた。	A	関係機関を交えた連携をし、進路指導を進められた。引き続き、情報共有の場面を作り発信していきたい。
	新しい共生共育の土台作り	新しい共生共育について双方から提案がされた	生徒数の変化により、どんな共生共育が可能か探る1年となった	B	碧春祭では、本校の生徒会や映像作品などで参加できてよかった。また、文化祭も問題なく参加できた。

様式第3号

高める	お互いを支え合う関係づくりと働きやすい職場環境の構築	業務の整理ができた	探りながらの1年だったが、行事等の偏りなどが見えてきた	A	新校舎で1年やってみて、学年の行事など適正な時期が見えてきた。次年度につながるとよい。
		相談しやすい雰囲気がある職場である	生徒の情報交換ができる良い雰囲気だった	A	職員数が足りない中でしたが、みんなで協力できた。遠慮せず声をあげることが大事だと感じた。
	「チーム伊豆高原」による、全員参加の業務改善	19 時退勤前年度比 2 割減	前年度とほぼ同じ	B	目標は達成できなかった。4～6 月、1 月に最終退庁時間が 19 時を超える日が多くなるので、それを踏まえた行事等の見直しを行う。 生徒に向かうための時間は確保できた。
		事務処理の時間が十分確保できた	会議の精選、事務処理のためのまとまった時間の確保ができた	A	会議の精選ができた半面、金曜日に行事になることが多く、業務時間内に終わらせることが難しいことがある。
	不祥事根絶	不祥事ゼロ	加害事故 1 件、被害事故 1 件	B	会計については事務が丁寧な説明をしてくれたおかげで適切に処理できた。 生徒指導、保護者対応、教職員のヒヤリハットの共有もしていきたい。